

令和5年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立糀谷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

・聞き取りテストを定期的に行うことで、メモを取りながら話を聞くこともできるようになってきた。小中一貫でも「聞くこと」を重点項目としての取り組みを行っているので継続していきたい。作文を書く機会も、行事と連携したり、条件作文など授業中にも行うことが出来た。

(2) 課題

・各学年、全体的に漢字の読み書きや文法事項等、基礎的な部分の継続的な学習が不足している。生徒自身が習得するために授業開始後や、定期的に小テストなどで課題に触れる機会を増やして行くことが必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	区の平均を4ポイントほど下回っているが、昨年度の校内平均値を1ポイント上回る正答率となっている。特に話すこと・聞くことと書くことに課題がある。	目標値をやや下回るが、概ね近い数値を出している。漢字の読み書きや、文法事項で一部数値が下がっているものもあるが言語事項全体が低い数値にはなっていない。	/
第2学年	漢字の読み書きについて、昨年度よりもさらに正答率が下がっている。知技の観点において全国平均より下回る傾向がある。特に、文法事項・漢字に課題がある。	全体的に目標値を上回っているが、「漢字を書く」ことと「文学的な文章を読み取ること」に課題がある。	全国平均とほぼ同じで、目標値を下回っているのは、「話の内容を聞き取る」ことと領域としては、「話すこと・聞くこと」に課題がある。
第3学年	昨年度と比較して各項目とも数値が上昇している。しかし、文法事項や文章を書くことに関しては目標値に達していないため課題が残る。	昨年度と比較して、全体的に目標値を下回る結果となった。その中で話す聞くの領域に関しては目標値に近い数値となっている。	昨年度と比較して、各項目とも数値が上がってきている。漢字や文法等言語事項の学習にやや課題がある。

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文法・語句に関する事項は平均的な数値だが、漢字の読み書きに関しては、区の平均を下回っている。	説明的な文章・文学的な文章の読み取りが区の平均を下回っている。また文章を書くの項目も区の平均を下回っているので、思考・判断・表現の観点に大きく課題がある。	それぞれの取組に対しては意欲的であるが、要点を捉えて学習に解く組むことに課題がある。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字を書くこと、文法・語句に関する事項で文節に関する理解が目標値を大きく下回っている。	説明的文章を読み取ることに關しての目標値は、上回っているが、文学的な文章を読み取る内容の中で、特に、場面と描写を結びつけての理解が目標値を大きく下回っている。また、書く領域に関しては「読み取った内容を正確に書くこと」に課題がある。	話し合いにおいて、話題や展開を捉えながら話しまとめることに関して課題は残るが、相手の意見を聞き取り内容を捉えようとする態度は備わっている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の読み書きは目標値に近く良好であるが、文法事項、歴史的仮名遣い等が目標値を下回っている。	話す、聞く領域では目標値を超える、または近い数値が上がっている。文学的な文章を読み取る内容の中で、特に、場面と描写を結びつけての理解が目標値を大きく下回っている。書く項目に関しては「読み取った内容を正確に書くこと」に課題がある。	文章読み取りの数値は低いが、自分の考えを表現してこうとする態度は概ね備わっている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
言語に関する事項は時間を掛けて繰り返し学習していく。また小テストなどを行って定着させていく。	作者の気持ちや、筆者の考えなどを短く書いていく機会を設け、思考したことを文字として表現していくことと連動させていく。各單元ごとにまとめを書くことで、学習内容を振り返る機会を作る。ワークなどを使用して授業後に定着させていく。	生徒に実態に沿って、全員が考えたい課題を作る。ICT機器なども活用してクラス全員が皆の意見を共有できるようにしていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
毎時間、漢字小テストを行う。間違えた漢字は各自練習させ提出するよう促し、定着させる。 文法に関しては、復習テストを定期的に行う。	ブックトークなどを行い、読書習慣を身につけさせる。月1冊以上、読むことを目標にし、読解力の向上を目指す。各單元ごとに200字程度の作文を課題とし、書く力の育成を図る。	話し合いの場を増やしていく。互いの発言をまとめ、発表する。その際、自分の考えを明確に伝えることができるようにしていく。 授業ノートでは、単に板書するだけではなく、気づいたことを自分の言葉で書きこむ。また、ワークの誤答の場合にも、気づきを書き込む。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
最上級生として改めて、授業に対する取り組み、また家庭学習の必要性を考えながら過ごして欲しいが、漢字や文法事項など反復学習が効果的な事項は時間を取って取り組ませていく必要がある。また、タブレット等でもドリル的な学習ができるので活用させたい。	朝の短い時間だが読書の習慣は付いてきている。生徒達は長文を読んで考える単元が比較的好きである。自分の言葉で気持ちを表す機会も多く取っているが、自信を持って書いていけるとよい。200字程度の短作文の機会を今後も多く設けていく。	授業で捉える目標を明確にしていく。生徒自身がどの観点、領域が苦手かを確認しその部分に時間を費やせるように声を掛けていく。授業でも積極的に発言や板書に行くように促していく。